

平成 27 年度 第 1 回湯河原町総合教育会議会議録

日 時 平成 27 年 5 月 20 日（水）午後 3 時 00 分～

場 所 教育センター201 会議室

出席者 町長、副町長、教育長、早藤委員、石井委員、小松委員、貴田委員
（事務局）総務部長、地域政策課長、企画係長
（教育委員会事務局）教育部長、社会教育課長、学校教育課長、図書館長、
美術館長

1 開 会

2 町長あいさつ

・皆様こんにちは。

第 1 回という形で、まずこの総合教育会議を始めさせていただく前に、自分の率直な思いをお話しさせていただき、ごあいさつとさせていただければと思います。

いわゆる教育委員会制度そのものが大きく見直されて、今回こういった形になっての新制度に基づく流れとあいまって今日があるわけですが、正直申し上げて、私自身も教育行政全般にいろいろな知識があるのか、いろいろな思いがあるのか、言葉は適当ではありませんけれども、何か不満があるのか、こういった思いは全くない中での今日のこの会議の 1 回目のスタートとなるわけですが、今回いろいろな報道等をみますと、教育委員会制度そのものの中に責任の所在がはっきりしないと、いろいろな悲惨な事故、事案が発生したことをひとつの動機づけのように、制度を大きく見直したというような、こんな背景がうかがえるわけですが、当町におきましては、長年の歴史の中で、学校教育はもとより社会また家庭教育を含めて教育界全般でその歴史を積み上げていただいたことに対して、これは本当に敬意を表し、またそのような中で個人的な考えをお伝えすれば、問題はなかったのかなと、こんな思いがあります。

一点、私なりの感覚で申し上げますと、成熟した社会にますます進んでいく中で、やはり学校教育においては、そのあり方も大切だと申し上げるわけですが、もう一方ではハード面の整備もやはりやっていかなければいけないという、こういったものが本会議を通じてお互いに、それぞれの関係者が本当の思いや本当の必要性の話をする中での、方向性を導いていくということは、ある意味、時代に求められているのかなという、こんな思いがあります。

単純に小中一貫という言葉だけを使って何かを決める事ではないわけですが、

たとえばそういったことについても、ハード面と、小中一貫という教育そのもののあり方が本当に望ましいかどうかというものにつきましても、やはり専門性の判断も必要となってくる、こういったことをひとつ考えても、いろいろな立場でお互いにしっかりお話をして、次の時代へというこんな思いがございます。

いずれにいたしましても、新制度に基づく今後の当面の課題といたしまして、大綱を策定していくという、今後のスケジュールもございますけれども、そういったものを進める中に委員各位にご協力をいただき、私も含めていただく中で、きたんのないご意見の情報交換、共有、こういったものが、この会議の大切な意味をなすのかなという思い、そして手さぐりであるという状況、まずは本音をお伝えさせていただく中で、今日の会議冒頭の私からのあいさつとさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

3 教育長あいさつ

皆さん、こんにちは。

本日は、町長主催によりまず第一回湯河原町総合教育会議の開催、ありがとうございます。平成 27 年度は、ご案内のとおり教育委員会制度が大幅に改正されまして、このような総合教育会議の設置が義務付けられるなど、戦後の教育行政の節目となる年と考えております。

この新制度では、これまでどおり教育の政治的中立性、それから継続性、そして安定性、こういったものは引き続き確保しながら、本総合教育会議の開催などを通じまして、町長との連携を強めていくというものでございます。

また、教育委員会といたしましては、今後、町長が策定されます、教育に関する大綱により、教育施策の方向性について、その共有を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

4 委員紹介

- ・ 露木 副町長
- ・ 早藤 教育委員会委員
- ・ 石井 教育委員会委員
- ・ 小松 教育委員会委員
- ・ 貴田 教育委員会委員

5 案 件

(1) 湯河原町総合教育会議設置要綱について

○資料 1 を説明（事務局）

○質疑

（町長）

…緊急の場合とは何を指すのか。

（事務局）

…例として、学校生徒に危害が及んだ場合などが想定されます。

（教育長）

…法律作成時に、いじめ問題が大きなきっかけとなっており、教育委員会の動きが思うようになかった、それに対して首長が積極的に会議を開いて進めていくということがあると思います。

（町長）

…2年前に、大変悲しい残念なことが起きてしまった。たとえばそのようなときに、湯河原町の教育委員会の対応が悪かったかということではないと思う。おそらく大津市の事件が法律改正の背景にあると想像できるが、もし、今後そのようなことが起きてはいけないことだが、例えとして言えば、そのような場合が緊急の場合ととらえるのか。

どこまでが緊急的な範囲ととらえるのか、今後しっかりと概念として事務局で整理をしてもらいたい。

（石井）

…2年前の事件は緊急にはいらないと思う。なぜかという、教育委員会本来の仕事です。大津では色々揉めてしまってあのような状態になったが、総合教育会議を開くような話ではないと思う。教育委員会の動きが悪いときに、町長が総合教育会議を開く、それならわかりますけれども。

（町長）

…今石井委員がおっしゃったような部分とか、それだけでこの制度を今後進めるのではなく、本質的な教育委員会の形態などがあつたとするならば、経験をされている委員さんが多いので意見をいただいて、緊急という概念ではなく、大綱策定と並行しながら、会議をすすめていくべきと思う。まずは情報共有をしっかりとしないといけない。学校教育関係については難しい部分もあるので、ぜひよろしくをお願いします。

(2) 「湯河原町教育大綱」の策定スケジュール（案）について

○資料2を説明（事務局）

○質疑

（早藤委員）

…この大綱は何年くらいをスパンとして考えたものなのか。

（事務局）

…町長の任期を考えますと4年、また町の総合計画では5年のスケジュールですので、4～5年を目安と考えています。

（早藤委員）

…4～5年ということは、教育は生き物なので社会状況とともに変化する中で、見直しは毎年行うものなのか、必要に応じてするのか。

（事務局）

…まだ考えがまとまっていませんが、当然見直しは必要と思います。随時行うのか、まとめて行うのかなど、これから検討していきます。

（早藤委員）

…さきほど説明の中で、予算が大きく動くものは第3回の教育会議で検討するということは、毎年見直すものが必要になってくるとは思いますが、どうですか。

（事務局）

…予算ではなく、あくまでも概算金額です。予算については教育委員会で措置をしていく形です。

（町長）

…概算金額という表記だが、教育委員会が執行する側だとしても、ここはマッチングしていないと大綱そのものが否定されてしまうので、どうあるべきかについては、将来後年度に発生するような計画や考え方とか、このへんの時間との関係もあったりとか、やっぱり大綱がどういう内容で示されて、どのように表現されていくか、そして実際にどのように反映されていくか、この整合性がなければこの大綱を作る意味がないというのが、皆さん共通の考え方になると思いますので、まだ事務方としても私も含めて、この仕組みというものが熟知できていない部分がありますので、冒頭のごあいさつで申し上げたように、そんなことも大綱をつくることありきだけではなくて、ラフな格好でいろんなことを、お互いが会議の中で意見交換しながら、会議外でもいいと思いますし、この会議そのものがどういう風に構成をされていくかというのは、これはやはり1年、大綱を作るのと同時にお互いがつめていく、ひとつの方向性を

見出していく年になるのかなと、計画を先延ばしにするということではなくて、手探りなところも正直あると思いますし、冒頭に申し上げた、これまでの学校教育の関係になると思うんですけども、それと将来の継続性が非常に重要な要素となると、特に学校教育については無視できないと思いますので、学校教育以外の、社会教育、家庭教育、このへんについてはまた意味合いが違うのかもしれませんが、ざっくりいってしまえば、そういう中で大綱のあり方、今後の物事の進め方が非常に、ざっくりばらんにお話しできる会議の進め方、会議づくりを、私も務めていきたいと思いますので、ぜひこれからも意見、現実的な話をさせていただくことが重要なことだと思いますので、よろしくお願いします。

(教育長)

…スケジュールとしてここに出ているのは、教育大綱の策定スケジュールであって、そのほかの教育の条件整備ですとか、予算のこと、児童生徒に関係するものですか、そういうところは随時、会議の中でお諮りできるということなので、教育大綱以外の案件は必要に応じ協議事項に加えますと書いてありますので、それに対応できるのではないかと思います。

(町長)

…今の教育長からの説明に、基本的には会議の定例的なスケジュールは、大綱抜きにしても、4回という事になりますけども、その中に必要に応じてその他又は別の案件として、あがってくるイメージということですので、資料は大綱ありきになってしまっているの、素朴な疑問が生じたように思いますので、その辺はしっかり会議スケジュールだけではなくて、会議そのもののスケジュールという概念で、しっかり今教育長から説明のあったようなことを、わかりやすく整理してもらいたいと思います。

必要に応じ臨時開催というのは、大綱以外のことで臨時的なことはあまり好ましくないですが、そういうことも含まれているという解釈でいいわけですね。

資料的に少しチープだということが露呈したような感じですが、いま言いましたようなことで進めていくということで、資料2につきましては、大綱策定のみならず、今日の一回目、そして次は8月を予定するような形の中で会議を催すということでご了解いただければと思います。

事務局はもう少し資料を作り直すよう、お願いします。

(3) 湯河原町教育委員会基本方針について

○資料3を説明（教育長）

○質疑

(町長)

…2ページ、9ページにあります、小中一貫教育という文言がありますが、この可能性と申しますか、その方向にいかねばいけない必然性があるのかどうか、どのような捉え方をされているのか教えていただきたい。

(早藤委員)

…小中一貫教育について、教育委員会でも数年前から検討はしてまいりました。そして実際に行っている先進地の視察もいたしました。

そんな中で、果たして湯河原にはそれが向いているのかということを中心に検討した中では、委員の皆さんの意見としては、湯河原では小中一貫教育は必要ないということでした。

実際に視察したところは、かなり過疎が進んで小学生、中学生の人数がほとんど廃校にするかどうか、あるいは合併しなければ存続できないようなところで、学校の施設なり、地域の学校というものを残すための手法として、そういうものを作っていたという現実を、実際の視察の中で学んできました。

湯河原の中で果たしてそういう状況にならざるを得ないときに、湯河原の規模や土地柄を考えても、今すぐに必要はないものだと、3年くらい前から検討してきた。

実際に文部科学省などから言ってくる小中一貫というものは、日本全体を見たときに多分それが必要だと、今から3～4か月前にその数字が出ましたけれども、必要な地域と必要のない地域、神奈川県の場合はほとんどなかったと思いますが、そういうものを踏まえていくと、湯河原町では実際に必要ないんだという意見がかなり出たと思います。

もう一つ、特に中学生の場合には、規模が小さくなってしまうと、部活などでチームが作れないとか、対外的な活動ができないということが起きてくるので、ある一定規模は必要だろうということ、そして教員同士の切磋琢磨という面でも、同じ学年あるいは同じ教科に複数の教員がいる必要があるだろうという認識はしていました。

(町長)

…そうしますと、特性を踏まえながら検討するという表現になったということですか。

(教育長)

…県が今目指す小中一貫教育のあり方という報告書が出ていますが、それを受けて、県では3市町を指定しています。モデル地区として今年度から2年間にわたり取り組んでいくわけですが、近隣では箱根町が指定され動き出しています。箱根町では、小学校、中学校が分散しております。理想としては一体型の小中一貫校だとは思いますが、分離型になっていまして、湯河原町でも、現状では分離型になってしまいますから、この箱根町のモデル事業の状況というのは、今後注視していく必要があると思います。

海老名市、箱根町、秦野市の3市町が今年指定され2年間でモデル地区として実施するという事です。

(町長)

…わかりました。次に14ページですが、地域に開かれた学校という表現、学校開放という意味合いなのか、このあたりのイメージはどのように捉えているのでしょうか。

(教育長)

…湯河原においてはコミュニティスクールになっておりませんので、評議員がおりまして外部からのかかわりもございます。

またボランティアを、十分ではないですけども、入っていただいています。そんな形で地域の拠点として地域とのふれあいをもっと密にしていこうことが課題として残っています。今後も多くの方が学校に入っただけのような方法を考えていきたいと思っています。特に町長の所信にありますようにボランティアの活用、参加を進めていきたいと思っています。

(町長)

…今ボランティアの話が出ましたので、まさしくボランティアの方々の協力なくしては、こういった方々が学校現場や教育にかかわっていただくことが、地域の垣根というのを解消していくでしょうし、学校のおかれている諸事情もよくわかっていると思います。今いわれたコミュニティスクールという極端な発想まではいかないにしても、ボランティアの方々の活用などやっていただかなくてはいけないのかなと、そんな思いです。

(小松委員)

…実際に小学校、中学校に子供が通って、私もその中でボランティアをやってきました。小学校は比較的保護者がまだ仕事をしていない方が多くて、かなり多くの保護者がボランティアに参加していますが、中学校になると極端に減ってしまって、すごく人手がいる作業があっても、保護者では全然数が足りないのです、そのようなときに一般の町民のボランティアに

参加いただければ助かるなど思うことがたくさんありました。

実際にそれを発信する場がないということ、教頭先生が言っていた。先日教頭先生とボランティアコーディネーターの方と話す機会があった中では、あんまり大勢の方が学校には行ってこられると困るということで、その加減が難しいのかなど。

(町長)

…子供さんの成長とともに家庭の環境も変わっていくから、そのような背景がでてきてしまうという、手が離れたからお金が必要なので働く、そういうことですね。失礼ですがボランティア精神があっても、誰でもいいというわけではなく、学校というエリアなので痛し痒しの部分がある。

(小松委員)

…プライバシーの問題があって、どこの子が何をしていたということ、吹聴されても困る。

(町長)

…発信をどうするか、やはり必要かなと思いますが、単純にボランティアの拡充ができるかということ、慎重にならざるを得ない部分もあるということがよくわかりましたので、また一緒に考えていきたいと思います。

最後に20ページの芸術文化の振興ということで、この発信力、現実的には冊子をつくったらどうかということもありますが、観光的な資源を町民の方々にあらためて知っていただくことは、社会教育上必要かなと思います。

文化財の指定を受けても、そのときがピークで終わってしまうなど、発信をもう少し積極的に進めていく必要があると思いますが、どう思われますか。

(教育長)

…昨年度の3月、補正予算で地方創生のための事業として、文化財冊子のリニューアルの予算をいただき取り組んでいるところです。その作業と同時に再度見直しを図っていくこととして、その中で看板を設置することで表示をしていくことと、観光会館内の展示室が古くなってしまっている、そこもリニューアルしていくことを進めていきたいと思っています。観光の町ですので、文化財も観光資源の一つとして、できればなと思っています。

昨年の補正予算をつけていただいたことで、教育委員会としてはそのように、前に進んでいくということです。

(町長)

…冊子を新しくするに当たって情報の見直しをしているのか、正しい情報に訂正する作業があるのか、具体的なことはわかりませんが、せっかくなので、冊子だけにとどまらず、地域政策の話になるがワイファイの発信場所の中に、その近所の文化的な歴史財産があるという、冊子に示される内容をコンパクトに凝縮して、その発信をしていったほうが、冊子はいきわたるのに限界がありますので、そのようにされたほうが情報の整理もする中で、活用してもらったほうが良いと思うがどうか。

(地域政策課長)

…ただいまの件ですが、同じ時期の補正予算で、スマートホンのアプリを使って観光案内をしようと、無料ワイファイの拠点も、観光箇所だけでなく町内の5箇所くらいの神社に設置の予定もありますので、今後教育委員会と共同で進めたいと思います。

(町長)

…教育委員会イコール美術館、図書館を含めてだと思いが、ぜひそのアプリなど、どのような方法でも、進めてください。

とりあえず私の方で気が付いたところをお伺いしました。今後の進め方としましては、行政教育の基本方針を軸に、大綱を含めて整合性をとりながら進めていくことになると思いますが、どなたかいかがですか。

(石井委員)

…15ページにおもてなしの心を育みますとありますが、児童生徒のおもてなしの心を育むと書いてありますが、観光立町推進があつて、教育の場であいさつしなさいということですが、これは教育の中では難しいです。

学校であいさつしなさいと教えること、町としてどう考えるか、その具体策がないと学校現場で教えようがない。教育委員会でもここは一旦外そうという話もあつたが、あくまでも湯河原は観光立町なので外すわけにはいかないだろうということで、町としてなにか仕向けていく具体策はありますか。

(町長)

…現実的には学校の生徒さんは、かなり大人以上にあいさつできる子どもが、はるかに増えていて逆に大人がそれを見習うようなところが正直言つてあると、常に感じています。町として具現的に子どもたちにとより、学校のあいさつ運動が、自然的に学校であつと、こんにちとはあいさつすることが、私の立場だからということではなくて意外と子ども

もたちが、それも小さい子どもたちにすごく浸透している。町としてはできる限りその水準を下げたくないの、子どもの方がしっかりしているということで学校で、大人に刺激を与えてもらいたいという本音が実はあるので、大人たちの方がどちらかというとあいさつをしないじゃないかと、いう人ほどあいさつできていなかったりする。

町が介入するというのではなく、今のあいさつ運動を進めていってもらいたい、こんにちは、おはようがいえる子が結構多いので、私は足りているかなと、いたずらに水準をおとさないようにしていただいた方が、家庭教育の中で親を刺激してくれるのではないかと、ほのかな期待感を持っています。

(石井委員)

…我々にしてみればこれは当たり前、この先はどうなるのか。

(町長)

…今の水準を落とさないように、子どもたちが育っていく中に社会の町の雰囲気、子どもたちの力で大人に刺激を与えてくれることのほうがいいのかと感じていますので、次の言葉についてどう考えるべきかということもあるかと思いますが、地方創生の中でも中学生の意見を吸い上げようという仕組みもありますので、観光に対する中学生の方々の考えを吸い上げたいということで、その機会に協力していただくような形で中学校にお願いしていますので、そんなところに出てきてくれればいいなと思っていますけれど、少なくとも、あいさつができるお子さんが本当に増えてきた印象は、すごく様変わりしている気がします。繰り返しになりますが、水準を落とさない事をぜひ続けていってもらいたいと感じています。

(教育長)

…毎月、学校各校を訪問していますが、私にだからあいさつをしているのか分かりませんが、あいさつしてくれることは感じます。

町内であったときにも、あいさつをするようになっていけば、観光客に対しても、ということになると思います。

(町長)

…役場の中でもあいさつしてくれと言っていますが、しない人もいます。大人になると何か邪魔してということもあるのだろうが、ぜひ、すごくいい印象を受ける機会が多くなりましたので、ぜひひとつ続けていっていただければと思います、よろしくお願いします。

今後も皆さんとこのような形でこの会議を進めていきたいと思っています。

基本的なスタンスについてはもちろん、一般の方々に入っていていただいでどんどん意見を吸い上げられるように進めていかなければならないと思っていますので、よろしくお願いいたします。

案件の4つについては私が進めてきましたが、おかげさまでご議論いただきましたので、事務局へ進行を戻したいと思います。

6 その他

(早藤委員)

…教育大綱を決めてから、本来的には順番でいくとそれから教育基本方針ができてくるという形で、その教育大綱の中には町長の冒頭のあいさつの中で、教育の内容も視野に、しかし施設的なハード面での必要性もある、そういうものをこの会議の中で、ということがありましたので、やはりそういうものがないと基本方針にもっていきることができない、2011プランの長期ビジョンの中でうたっていないと、なかなかやっていけないだろうと。

時々、教育委員会の審議の中で話題になっていましたが、文化の中心的な施設が、湯河原町には現実的でない。

いろいろな文化の催しはやっているが、図書館を借りたり、美術館を借りたり、観光会館を借りたり、あるいは各地域の会館を借りたりという形で、これから文化というものが一つの観光の資源にもなっていくと先ほどの町長のお話にもあった中で、やはり物理的な拠点というものが必要ではないかと、そういうものを今後の長期のビジョンの中でうたって、それに向かって大綱なり基本方針なりを作っていくというものができなきゃいけないかと思えます。

これに対してはやはり、町の中心の人たちが長い目で見た予算的なものから、人口動静など社会情勢を見た中で決めていく事だと思えますけれども、やはり教育をしていく中で、学校教育だけでなく社会教育の中でも、教育の基盤というか、拠点が必要であると思えますので、そのあたりをぜひ具体的に考えていただければと、個人的にもこれまでの協議の中でも思っています。

(町長)

…あくまでもこれは私の個人的なイメージであり行政で共有されているわけではないので、誤解の生じないようにあらかじめ申し上げますが、この機会ですので、教育施設というくくりではなくて湯河原町全体の福祉会館なども含めて、老朽化しているという現実があるわけですね。耐

震化の必要性があったりする中で、もし今後進められるのであれば、観光会館を取り壊すこと。取り壊す前に一時的な受け皿がないと困るので、町民体育館の空調施設、どこまでできるという問題がありますけれども、今は空調施設がないので、寒い時期暑い時期には人集めをすることが非常に難しいということで、体育館という意味合いですけれども、そのようなものを施せば、ある程度一時的な人の集まりはできるかなと、観光会館を壊すにあたっての一時しのぎ的な要素をもたせなければいけない。

最終的には観光会館を壊して、そこに今おっしゃられた音楽家を呼ぶとか、文化的なものだけの、あまり大きなものは財源的にも色々な背景を総合的に考えると、大きなものではなくてもいいので、ただ若手のアーティストや色々な人たちを呼び込めるような施設を、跡地にあるいは万葉公園周辺に、あのあたりのイメージにマッチするかなというぼんやりとしたイメージはありますけれども、そういった個人的な思いがありますので、それが早藤委員が考えられているイメージとは合うかどうか分かりませんが、色々な部分で何かを壊して新しくしなければいけない必然性と、ただ単純に同じところに同じものを作るのでは、あまりにもコストもかかりますし、合理性もないので、そういったものも考えていかなければいけない中で、今いった文化に特化したものというのは、一つ考えられるのかなと、それにはまず町民体育館に空調関係を入れられるかどうか考えてほしいということは、教育委員会に探ってもらっていますが、まだ長いスパンではきちっと整理ができていませんけれども、自分の思いとしてはそういうものを昭和38年の耐震化のできていない観光会館にこれ以上お金をかけるというのは、難しいかなという思いがあります。

自分の思いとして、そういうイメージが数年前から、そういうときがきたら自分の考えを述べたいなという思いがあります。

7 閉 会